

一般社団法人 Agricola 就労継続支援 A 型事業所「Farm Agricola」(当別町)

○基礎情報【経営形態：養鶏、野菜生産及び販売】

【従業員数：2名、障害者7名】



<問い合わせ先>代表理事：水野氏 ☎ 080-4502-4584

1 農福連携に取り組んだ経緯

代表理事の水野智大氏は、精神科の看護師として病院に勤務していたが、医療従事者が患者を管理するように感じられた病院よりも、支援者と利用者が目線を合わせることができる福祉の世界に魅力を感じた。また、水野氏は実家の牧場で6年間勤務し、農作業経験があった。そこで、平成29年、当別町の離農地を借りて新規就農し、一般社団法人及びA型事業所を設立して、障害者の受け入れを開始した。

2 取組内容

(1) 就労形態：就労継続支援A型事業所。町内に住む利用者を自宅等から送迎する。利用者は、1名が知的障害で6名が精神障害。

(2) 就労期間：通年(予定)

(3) 就労時間：毎週月曜日から金曜日、9時30分から15時30分

(4) 障害者の作業内容：

① **養鶏**・・・ビニールハウスの鶏舎2棟でポリスブラウン種等800羽を飼育。水やり、餌配合器の操作、給餌、卵集め等の全ての作業を行う。また、卵は毎日約400個を出荷しており、洗卵及びパック詰めを行う。

② **野菜及び水稲の栽培**・・・当別町とJA北いしかりが道の駅出品者向けに設けた補助金を活用してハウス3棟を建設し、借地3.5haの一部でナス、ピーマン、トマト及び水稲を栽培(うち1haは自家用)。トマトについては、昔ながらの味を求め、アロイトマト及び世界一という固定種を栽培している。



3 取組の特徴

(1) 看護師資格を有する夫婦で運営しており、医療面での不安や困りごとに対して的確にサポートできる。

(2) 2020年東京オリンピックにおける食材提供を念頭に、あまり例がない養鶏での有機JASの取得を目指しており、北海道米、熱処理した道産大豆フレーク、魚粉及びEM菌等を自家配合して餌にしている。

(3) 会員制ソーシャルネットワークサービス「facebook」を積極的に活用しており、2週間で6千人に表示される企業向け広告サービスを5,000円で利用するなど、インターネットを用いた販売戦略を立てる。

(4) 当別町における農産物は水稲と麦が中心であるが、平成29年9月にとうべつ道の駅がオープン予定であり、道の駅では気軽に購入できる野菜が必要となる。そのため、Agricolaが野菜を出荷する予定。

4 障害者就労への考え方

(1) 精神障害者を健常者に近づけるために指導するのではなく、障害があるからこそできる作業を組み立てるのであり、農家が農作業効率を求めると破綻が生じる。長い間引きこもっていた方が、作業所に来るということ自体が奇跡であり、働き詰めるよりも、適度に息抜きしながら気長に継続して欲しい。

(2) 水野氏は、利用者の工賃を能力でなく責任の重さで決定している。そして、責任の重さはどの利用者も同じであると考え、工賃も同じに設定している。

(3) 最低賃金で利用者1名を受け入れるためには、約100羽の鶏の飼育が必要であり、卵の価格も1個50円以下にはできず、最低賃金以上の工賃を支払うことができる経営を行う難しさを実感している。

5 今後の課題や将来展望

利用希望者の増加に対応して、安定的な生産活動と工賃支払いを実現するために、以下の取組を行いたい。

(1) 認定農業者を取得することで、各種制度の適用を受け、効率的な経営を行いたい。

(2) 飼料の配合過程で家庭用ミキサーを利用しているが、2t処理できる大型配合機を導入し、作業の負担を減らしたい。また、現在60%の産卵率を75%以上にするとともに、洗卵機を導入し、経営効率を上げたい。

(3) 出荷先のコープさっぽろは、冷蔵コーナーの利用手数料を高く設定しておらず、契約した冷蔵コーナーに置く商品は、出荷者が自由に決められる。今後、マヨネーズを貸厨房で製造し、冷蔵販売したい。

(4) 鶏を1,000羽に増やすとともに、隣接する北海道医療大学の学生を休日ボランティア等として受け入れ、休日の人手不足に対応したい。